

浜松市立南部中2年生が自衛隊の仕事体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、11月8日（木）と9日（金）の2日間、浜松市立南部中学校の2年生13人に対する職場体験学習を支援した。

この学習は、生徒が職場実習を通して各種の職業に必要な資質・能力や自己の適正について考え、働くことの意義や厳しさを理解し、職業選択や自己の生き方に役立てることを目的として同校が行っている。

1日目は静岡地本浜松出張所（浜松市）と航空自衛隊浜松広報館（同市）、2日目は陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）において職場体験を実施した。

初日は、浜松出張所において所長の村上雄一3等空佐が自衛隊の概要や陸・海・空の違いについて、写真などを使ってわかりやすく説明したほか、レンジャー資格を有する同所の石原聖和2等陸曹が「災害時等に役立つロープの結び方講座」を実施。生徒たちはさまざまな結び方に頭を悩ませながら奮闘していた。その後は航空自衛隊浜松基地に隣接する浜松広報館に移動し、展示されている装備品などを見学して航空自衛隊や航空機について学習した。

2日目は陸上自衛隊豊川駐屯地を訪れ、数日後に行われる「駐屯地創立記念行事」の予行訓練を見学。生徒たちは、空砲を使用した模擬戦闘訓練を間近で見ることができた。

終了後、参加した生徒からは「自衛隊には陸・海・空だけでなく、その中にもたくさん仕事の種類があることを聞いて驚いた」「ロープの結び方を教わった時、最初はうまく結べなかったが、結べた時は嬉しかった」などさまざまな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も各学校との関係を深めるとともに、職場体験などを通じて自衛隊の魅力を紹介していく。

掛川にじいろ保育園に「しずぽん」が遊びに来たよ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）袋井地域事務所は、11月14日（水）、掛川にじいろ保育園（掛川市）において行われたお楽しみイベントを「しずぽん」とともに盛り上げた。

これは、同保育園園長からの依頼で、静岡地本の営業部長「しずぽん」とふれあうことで子供たちに自衛隊を知ってもらい、楽しい思い出を作ってもらおうと行われた。袋井所は自衛隊の小型トラックで保育園を訪問。集まった園児約40人と小学生児童約20人を前に、広報官の渡辺悠太3等海曹がクイズを交えて自衛隊を紹介した。その後、砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の水を展示すると、子供たちは氷が溶ける時に聞こえる「パチパチ」という音に耳を澄ましたり、直接氷に触れたりして楽しんでいった。

そして、待望の「しずぽん」が会場に登場。子供たちは歓声を上げながらふわふわの「しずぽん」を抱き着いたり、一緒にジャンプして遊んだり、大はしゃぎの様子。また、子供用のミニ迷彩服を着て小型トラックに乗り込むなど、自衛隊を大いに満喫していた。

子どもたちからは「自衛隊かっこいい」「しずぽん、また遊びに来てね」などの声を聞くことができ、楽しい思い出ができた様子だった。

静岡地本は、今後も担当地域における広報活動を積極的にを行い、自衛隊に対する親近感や正しい認識と理解の向上に努め、将来を担う若者に夢と希望を与える活動を続けていく。